

## 令和4年度 学校運営連絡協議会実施報告書

### 1 組織

- (1) 都立蒲田学校 学校運営連絡協議会
- (2) 事務局の構成 教務担当主幹教諭
- (3) 内部委員の構成  
校長、副校長、経営企画室長、主幹教諭（教務担当）、主幹教諭（生活指導担当）、主幹教諭（進路指導担当）、主任養護教諭 計8名
- (4) 協議委員の構成  
蒲田本町一丁目町会長、NPO 法人ピボットフット理事長、田進ゼミ池上校室長、学校法人片柳学園 法人本部総務部総務課次長、蒲田東特別出張所長、大田区立蒲田中学校長、同窓会副会長、PTA 会長、都立高校元校長（キャリアコンサルタント）、元教育庁教育監（大学理事） 計10名

### 2 令和4年度学校運営連絡協議会の概要

- (1) 学校運営連絡協議会（第1～3回）の開催日時、出席者、内容、その他
  - 第1回 令和4年6月30日（木）内部委員8名、協議委員9名  
協議委員委嘱、評価委員選出、校内授業視察  
学校経営計画、昨年度の学校運営連絡協議会の課題  
サポートルームの活性化・効果的な活用について
  - 第2回 令和4年11月15日（火）内部委員7名、協議委員9名  
これまでの教育活動に関する報告、校内授業視察  
協議委員からの教育活動に対する意見、学校評価の内容検討、協議
  - 第3回 令和4年2月17日（木）内部委員8名、協議委員8名  
学校評価の結果、これまでの教育活動に関する報告
- (2) 評価委員会の開催日時、会場、出席者、内容、その他
  - 第1回 令和4年11月15日（火）内部委員2名、評価委員2名  
学校評価の基本方針の確認、昨年度の学校評価結果の分析・考察  
今年度の学校評価の実施に向けた検討
  - 第2回 令和5年2月17日（木）内部委員1名、評価委員1名  
今年度の学校評価アンケートの集計結果の分析、考察

### 3 学校運営連絡協議会による学校評価

- (1) 学校評価の観点  
学習指導、生活指導、進路指導、保健指導・美化活動、体罰防止・いじめ防止、課程・地域との連携
- (2) アンケート調査の実施時期・対象・規模

・11月	全校生徒	対象：371人	回収：350人	回収率：94%
・11月	保護者全員	対象：371人	回収：245人	回収率：66%
・11月	地域・住民	対象：20人	回収：14人	回収率：70%
・12月	教職員	対象：43人	回収：43人	回収率：100%
- (3) 主な評価項目  
学習指導、生活指導、進路指導、保健指導・美化活動、体罰防止・いじめ防止、課程・地域との連携、ライフワークバランス
- (4) 評価結果の概要及び分析・考察
  - (ア) 学習指導

学習においては、コロナ禍で学びを止めないために、ICT機器を活用した授業作りやオンラインによる課題提出、日常の連絡などが頻繁に行われるようになった。ICT機器を使用した丁寧な学習指導や連絡を行ったことで、保護者からの高い評価を得ることができた。今後は、ICT機器を活用した授業作りをさらに進めるとともに、UD（ユニバーサルデザイン）の視点を取り入れた授業作りを学校全体で取り組み、落ち着いた環境の中で、より分かりやすい授業ができるように検討を進めていく。学習に取り組む意欲については、生徒、保護者の7割以上が肯定的な評価をしているが、教職員の評価は低くなっている。教職員の求める水準と生徒、保護者が求める水準に乖離があるためと考えられる。生徒理解を深め、生徒の学習意欲が喚起できるように授業を工夫し、基

礎学力の定着を図っていく必要があると考える。

(イ) 生活指導・学校生活

新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、実施することができなかった学校行事を感染症対策を徹底することで実施することができた。学校行事は、学校生活に節目や彩を添えるとともに、より良い人間関係作りや社会のルールを学ぶ機会となっている。次年度以降も生徒の成長につながる行事の検討を進めていく。その他の項目に関して、ほぼ7割以上の生徒、保護者、教員が肯定的な評価をしているが、部活動については、肯定的な意見が極端に低くなっている。コロナ禍で十分な活動ができなかったということを差し引いても低い数値である。教員の肯定的な意見も低くなっており、専門的な指導ができないことで生徒に充実感をもたせられていないと感じている教員が多くいることが原因であると考え。部活動指導員を導入して専門的な指導を行っている部もあることから、来年度以降、部活動指導員の配置を増やし、専門的な指導を行うことによって生徒に充実感をもたせられるようにしていく。

(ウ) 進路指導

年間を通して計画的で丁寧な進路指導を行っていることや、多様な生徒ニーズに対応した進路指導を行い、進路内定率も高いことから生徒、保護者ともに肯定的な評価が高くなっている。

今後、3年間を通じた進路支援計画を策定し、第1学年からの系統的・組織的なキャリア教育・進路指導を推進し、的確な進路情報の提供と進路相談体制を整備することにより、進路意識の高揚と多様な生徒の進路実現を図ることが重要であると考え。

(エ) 教育相談・美化指導

SC（スクールカウンセラー）の人数と来校回数は昨年度と変わらないが、YSW（ユースソーシャルワーカー）の人数は2名から4名となり、来校回数も週2回から週3回と増えた。また、担任も生徒の小さな変化を見逃さず、その都度丁寧に相談に乗っている。本校には多様な生徒が入学しており、抱える悩みも多様なことから、相談できる人と機会が増えたことと丁寧に生徒対応をしている点が保護者から評価されていると考える。今年度、放課後の居場所づくりとして「くすのきルーム」を設置した。課題を行ったりパズルをしたりして放課後の時間を過ごす生徒が毎日数人利用しており、延べ360人以上の生徒が利用をした。今後も放課後の居場所づくりを進めていく。

(オ) 地域との連携

今年度は、各種行事を通して地域の方々にも本校を訪れていただき、生徒の様子を見ていただくことができた。実際に目で見て感じた部分に関しては、高い評価をいただいているが、学校内部の見えない部分に関しては、無回答が多かった。今後は、地域の中の学校として、地域の行事等にも参加させていただき、交流を図る機会を設けていきたい。また、実際に見ることができず、今回無回答だった部分に関しては、別の手段で発信できるように検討していきたい。

#### 4 学校運営連絡協議会の成果と課題

(1) 学校運営連絡協議会を実施して得られた成果

今年度の重点目標の一つである、放課後の居場所づくり活動の実際を視察していただき、保護者として期待することや、行政でも課題意識をもって同じ取り組みを進めていることなど、放課後の居場所づくりの重要性を改めて認識することができた。その運用方法についても助言をいただくことができた。

本校の募集対策について、学校行事の際に校内を見てもらったり、本校の魅力を地域の中学校や関係機関に丁寧に説明したりすることで、蒲田高校の見える化につながり、中学生やその保護者、中学校の教員の理解が深まったのではないかと助言をいただいた。また、様々な立場から本校の魅力を発信するための方法についても助言をいただいた。

(2) 学校運営連絡協議会を実施して明らかとなった課題

放課後の居場所づくりのために開設した部屋の名称を、当初は「サポートルーム」としていたが、大田区の中学校では、特別支援教室をサポートルームと呼んでいることが分かった。サポートルームの利用に際しては、保護者からの申請を受けて利用が開始するものとなっているため、何気なく立ち寄れる場所として認知されないのでは無いかとの助言をいただいた。助言を受けて「くすのきルーム」と改名した。

部活動の運営について、地域との連携や生涯スポーツとして楽しむ活動があっても良いのではないかと助言をいただいた。

5 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項

(1) 学校運営

- ・業務の見える化を推進し、特定の教員への業務の偏りを減らす。

(2) 学習指導

- ・生徒の実状を見極め、実態に即した学力の向上を目指した研修を推進する。

(3) 特別活動

- ・生徒が主体となった学校行事を作るために、生徒の充実感や達成感を高めることができる体制を築く。

(4) 生活指導

- ・段階的指導のシステムを十分に活用し、生徒達に社会人として必要な規範意識を身に付けさせる取り組みを推進する。
- ・部活動の活性化に向けた取り組みの一層の推進を続ける。

(5) 進路指導

- ・3年間を見通したキャリア教育を推進し、本人の特性に合わせた進路選択ができるように、計画的な進路指導を行う。

(6) 健康・安全

- ・生徒の健全な心と体づくりの取組を推進するため、精神科校医等学校医と連携した支援を行う。
- ・スクールカウンセラーやユースソーシャルワーカーと連携し、生徒に応じた自立支援を推進する。

6 「学校が良くなった」と考える協議委員の割合

(1) 協議委員人数 10人

(2) 学校が良くなったと答えた協議委員の人数

そう思う	多少そう思う	どちらとも言えない	あまりそう思わない	そう思わない	分からない	無回答
9	1					

7 職員会議及び企画調整会議への協議委員の参加実績及び成果

特になし